

新基地建設反対名護共同センターニュース

「この国に民主主義はあるのか！」

土砂投入の暴挙許せないー海と陸で抗議



政府・防衛局は25日、辺野古側の埋立区域②に土砂の投入を新たに開始するという暴挙に出ました。県民の7割以上が反対の民意を示した県民投票の結果を足蹴にしたもので、県民のみならず全国・全世界から「日本は、本当に民主主義国家か？」と安倍政権への不信と反発の声が上がっています。この日、海上では抗議船7隻、カヌー47艇で、ゲート前や辺野古の浜では700人の県民が「土砂投入はやめよ!」「美ら海守れ」と怒りと抗議の声を上げました。

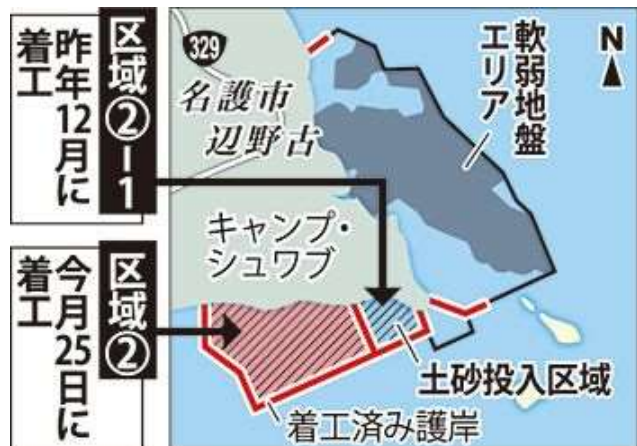


「軟弱地盤、活断層、ジュゴンの死など自然もここに基地はできないと主張」

辺野古浜での連帯集会でオール沖縄の高里鈴代共同代表は「軟弱地盤に活断層、ジュゴンの死など自然もここに基地はできないと主張している。政府の欺瞞を明らかにして新基地を止めよう」と訴えました。ヘリ基地反対協の安次富浩代表やカヌーチームの代表が、「あきらめることなく闘いを発展させよう」と発言。全員で頑張ろう三唱し、新たなたたかいへの決意を固めました。



欲しかった年度内の着工実績
 土木技師の奥間政則さんは「年度末が迫ったなかで予算の関係から3月中に着工の実績が欲しく、防衛局は焦っている」と話しています。



(図は、琉球新報電子版 26日付けより)

「美ら海殺すな！」ゲート前で座り込み



闘いは不屈に続く

キャンプシュワブゲート前では翌26日も数十人の県民が工事用ゲート前に座りこみ、コンクリートミキサー車や石材を積んだダンパーが基地内に入る都度、抗議の声を上げました。「海を殺すな!」「違法工事は直ちに中止しろ」とシュプレヒコールを繰り返しました。

国民全体が考えるべき 平和と民主主義の問題

静岡県から初めて参加したという女性は「こぼろ抜きされてびっくりです。これは沖縄だけの問題ではなく、国民全体が考えるべき日本の平和と民主主義の問題で、譲ることはできません」と話していました。